

**「保健医療科学」  
第63巻 第6号 予告**

**特集：エビデンスに基づく医療政策へのDPCデータの活用（仮題）**

DPCはいかに誕生したか—DRGとDPCの違い—（仮題）	迫井正深
DPC導入がわが国病院医療に及ぼした影響—過去10年の総括—（仮題）	岡本悦司
医療計画PDCA研修でのDPCデータの活用—医療計画作成支援データブックの紹介—（仮題）	高山義浩
医療計画へのDPCデータ活用例（仮題）	伴正海
DPCデータからみたわが国入院費の国際比較（仮題）	岡本悦司, 熊川寿朗

**編 集 後 記**

本特集は、特定健診・特定保健指導を、データヘルスの取り組みとして、また、PDCAに基づく事業としてどのように発展させていくのかという課題について、推進の考え方・方策・データベース活用法に関する総説・解説、さらに、具体的なデータ分析や自治体の取り組みの事例など、多面的に取り上げている。

読み進めるうちに、特定健診のデータ分析とPDCAサイクルが、制度の対象をこえたライフコースにわたる健康リスクへの介入への施策拡充や、部門横断的な連携・推進体制の構築のためのエビデンス・基盤を提供しうることが、分かってきた。これは、私にとっての大きな発見であった。健診や保健指導は、地域の住民や関係者から、どのように受け止められているのだろうか。また、「保健医療福祉の連携」と言われる時代、健診や保健指導は、地域の医療や福祉・介護分野の関係者・自治体担当者から、どのように受け止められ、そこに、どのような具体的な連携の糸口が見出されているのだろうか。こうした問いに対する示唆的な内容が、本特集には豊かに含まれていると思う。

効果的・効率的な事業運営という課題は、保健分野に限らず、医療も福祉・介護も、その他の分野も直面している。地域において、分野横断的に地域の状況が把握され、波及効果の高い介入ポイントが見極められ、そのために多分野協働の体制がつくられたり、事業の統合再編が進められたりするといったPDCAサイクルは、今後の自治体・保険者の運営にとってますます重要になるだろう。保健事業におけるデータ分析とPDCAサイクルの推進がこうした動きにもつながることを期待しながら、今後の動向を注視したい。

（医療・福祉サービス研究部 森川美絵）